

エムエスピーの履歴書

水谷政司 ⑭

『レーザーショット B406』と『トゥルータイプの OCR フォントの開発』が成功したので、1992 年に行ったリース契約でのシステム更新での DIQ プリンタ

歴史アーカイブス

入替は、高品質・高速印刷・低騒音・低設置面積という特徴がありましたので、多くのユーザーに喜んでもらえたシステム提供が出来たと思います。

車の業界も台数の伸び率こそ低くなったもの、まだ右肩上がりの業績で、顧客の業績も順調でした。このころに、大きな商談が舞い込みます。

それは、本部・支部を結んだ経理システムの構築の話でした。当時のエムエスピーは小所帯だった為、全体の受託は困難でしたが、導入のコンサル

こころでも PC 知識が生きてきました

黎明期のパッケージの違いを調べた事が生きてきました

タントのみを請け負うという事とし、古巣の会社に元受けとなって貰うことで入札に応札致しました。当時の経理システムと言えば会計事務所を中心とした受託業者か、パソコンのパッケージソフトかのどちらかの選択でしたが、そのどちらも「公

益法人会計」では不足がありました。

不足内容は、公益法人会計の特徴である予実算管理だけでなく、会費管理や、未収・未払管理等が一緒に出来ない仕様のためでした。未収・未払管理とは販売管理そのものなのですが、公益法人部

分と収益法人部分の両方の特徴を有しているユーザーにとつては、単なる予実算管理だけでは到底受け入れられるものではなく、いくつかの支部で既に使っていた PC パッケージなどを推奨されましたが、この点の能力にも問題があったため、受

託開発のソフトウェアとなりました。

現在の公益法人会計でもこれらの統合機能を提供したパッケージソフトは無く、受託開発したことでかえって価格が抑えられたと認識しております

大番頭会計ソフトサポート・帳票印刷サービス

大番頭とは、株式会社ミルキーウェイ（後の弥生株式会社）が、1983年より発売していた中小企業向け財務会計ソフトのシリーズ名である。大番頭は、主にMS-DOSやDOS/Vに対応する会計ソフトで、1980年代には代表的な会計ソフトの1つとして人気を博した。1999年に大番頭シリーズは弥生会計シリーズと統合され、ブランドとしての役目を終えた。元帳・試算表他、帳票印刷サービス NEC PC 9800 シリーズ MS-DOS 3. 3D などでは、大番頭ソフトは「三代目大番頭」などの名前で、盛んに利用されたソフトです。もともと、MS-DOS形式での操作性を考えて作られていましたが、その後Windows版大番頭も作られました。

す。しかし、受託に至るまでの道のりは簡単なものではなく、例えば複数からの入札価格では上が二億から下が7000万まで大きなばらつきがあり提案企業の考え方によって見積基準価格が違ってお

りました。

余談ですがこのことが公益法人での解決ソフトの普及の阻害となっているのだと思います。

開発に当たり支部の独自性を考慮する為、委員会制度を採り入れ、10ほどの地域の会計担当者に参加してもらい、支部にて必要な機能の洗い出し、経理仕訳の勘定科目の考案方のルールの策定、本部間のデータ送信のタスキミングなど6カ月程度の仕様確定期間を経て1994年1月から本稼働を開始し、その後何回かの改修を行い現在に至っております。ありがたいことです。納入翌年の1995年1月阪神淡路大震災を目の当たりにしたことを強烈に記憶しています。

（エムエスピー相談役）